

1 校章

考案者： 宮 西 重 次

制 定： 昭和57年8月26日

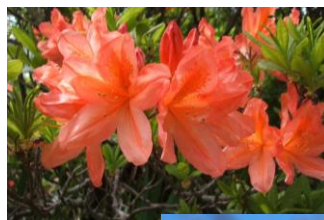


中央の白色は、あさひ（旭）を表す。青色の星は北斗星。黄色の部分、漢字の「人」を5つ組み合わせ、仲良く手をつないで団結の姿を表す。さらに、白色は、まだ純粋な小学生が自分の好きな道を進めることを、また、空色は、青空のようにすかっと爽やかな誰からも好かれる人になるようにという願いをこめている。

《 スクールカラー・校花・校木 》

2 スクールカラー……『オレンジ』

学校の教育目標は、保護者や地域住民、時代社会の要請等を考慮し、人間形成の教育にとって高い価値を集約して設定されている。特に、情意面では、「思いやりのある子ども」の育成を目指している。というのは、近年、社会的連帯感の喪失、人間性の喪失傾向を反省し、その回復を願っているからでもある。したがって、学校教育への期待を重視して、「あたたかみのある人間教育」をめざす意味で、校舎の色の一部にオレンジを用い、スクールカラーとした。



3 校花……『レンゲツツジ』

比較的長い期間にわたって咲き、心をなごませてくれる花であり、スクールカラーに合わせ、校花とした。



4 校木……『桜』

四季の変化を如実に表現する桜は、古来、日本人の心を象徴するものとして親しまれ、子どもたちにとっても身近な木であり、教材として価値がある。しかも、開花時には人の心を惹き、自然に親しませる大きなはたらきをもつ桜を、校木とした。

5 校歌



ゆたかなる いなみのひろ



のくさもえて かせさわやかに ふくまどにあか



るいえがはずみます まなぶひとみがひかりま



すのびるわれらのあさひ あさひしょうがっこう

旭小学校 校歌

一

ゆたかなる
稲美の広野
風さわやかに
明るい声が
学ぶひとみが
伸びるわれらの
旭 旭小学校
草萌えて
吹く窓に
はすみす
光ります

二

はるかなる
藻琴の山に
緑やさしい
心合わせて
清き校風
集うわれらの
旭 旭小学校
雲湧いて
学舎に
励みます
つくります

三

おおいなる
美幌の大地
ふみしめ歩む
希望の風花
翔び立つ明日
進むわれらの
旭 旭小学校
雪晴れて
この道に
開きます
のぞみます

作詞 住吉 栄樹
作曲 加藤 成次

(昭和五十七年十月二十日)